

情報処理士は、情報スキルに強いだけの人材ではありません。 より高度なビジネス活動ができる人材です！

「確かな情報実務能力を備えていることに加え、多様な業務に生きる課題発見・解決力を養い、さまざまなスタッフと協力しながら、結果を出すことができ、IT化が進む現代社会において、より高度なビジネス活動ができる人材」。そんな人材を大学が育て、その質を保証するのが、情報処理士資格、上級情報処理士資格です。

情報処理士資格取得者は

情報実務上の課題を把握し、その解決に向けて自らソフトウェア操作、インターネット活用、データ管理などを行い、情報を収集・活用し、様々なスタッフと協力して課題解決に貢献します。

パソコンなどの
情報機器の操作スキルを持ち、情
報の収集・加工・編集・発信
ができます。

ビジネス現場で情報実務を
実践し、主体的に試行錯誤を重ね、
目標の達成に
貢献します。

情報実務知識・スキルを
活用し、忍耐強く困難を克服し、
問題を発見し、解決します。

課題を明確にし、多様な人々と
協力し、創意工夫を凝らし、総合的
課題解決力を発揮します。

上級情報処理士資格取得者は

インターネット活用、データ管理などを行う総合的な実践力を習得し、高度な情報実務能力を発揮し、問題の発見と解決に貢献し、創意工夫を凝らし、チームの機動力を強化します。

急速に進化する
情報技術の学習を続け、
自分の技能を検証し、
改善できます。

自己管理能力と
責任感を持って、
様々なスタッフと協力して
課題解決に取り組みます。

情報システムや
社会の変化に対応し、能力向上に
努め、チームの能力向上
にも貢献します。

社会が切望する
社会人基礎力を養い、自己を適切
に管理し、高い業務効率を保ちます。

情報処理士、上級情報処理士資格「学修の質保証の方法」

大学・短期大学は、協会認定のルーブリックによる
評価基準を参考に到達目標達成度評価表を作成

大学・短期大学が、到達目標達成度評価表の評価
結果を協会に提出

評価表をもとに、学生が資格教育課程の総合的ま
とめの学修で総合的に自己評価する。

協会は、教育課程の単位認定結果と到達目標達成度
評価結果によって資格の認定

学生の自己評価を参考に教員が到達目標の達成
度を確認・評価

修了生の学修成果を担保するとともに、資格の社会的通用性を高めることを目指します。

情報処理士資格

情報処理士資格は、「確かな情報実務能力を備えていることに加え、多様な業務に生きる課題発見・解決力を養い、さまざまなスタッフと協力しながら、結果を出すことができ、社会の変化に対応して学び続ける能力を持つ能力を保証する資格です。

「情報処理士」資格授与要件

情報処理士資格は、下の3領域に関して、それぞれの到達目標があり、必修科目と選択科目を学ぶことで、既定の16単位を修得して資格が授与されます。

領域	資格到達目標	必修科目の 単位数	選択科目の 単位数
領域1:情報実務の知識・スキル・態度と実務実践力の領域	情報実務に必要な知識・スキル・態度、それを活用する実務実践力の基本とその学修力を身につけている。	2単位以上	10単位以上
領域2:情報実務を支える学修の基礎能力と教養の領域	幅広い情報実務に対応できる学びの基礎能力や社会と自分を知力を備えている。	2単位以上	
領域3:情報実務の総合的課題解決と学修継続力の領域	学びの基礎能力や実務実践力を活かして取組む課題解決の学修活動を通して、多様な職業能力の基盤となる課題発見・解決力の基礎と学びの継続力の重要性を理解している。	2単位以上	

目標に到達するための教育課程編成の例

情報処理士資格に関して本協会が設定した到達目標に至るために各大学は、独自の工夫を凝らした学修項目・学修プログラムを設定して、学生の教育を行います。下はその一例です。

情報処理士の領域3「実務実践力」で設定された学修項目と学修プログラムの一例

学修項目	学修プログラム
●パソコン操作の基本技術と倫理 ●ワープロソフトによるレポート作成 ●表計算ソフトを活用したデータ加工演習 ●インターネットを活用した情報収集デジタルメディアの特性と情報表現 ●情報実務実践演習 ●情報実務実践力の課題と能力開発	アプリケーションソフト及び情報機器を活用した情報収集・分析・加工・表現の総合的演習によって、叙法実務実践力を修得する学修プログラム

「上級情報処理士」資格授与要件

上級情報処理士資格は、下の3領域に関して、それぞれの到達目標があり、必修科目と選択科目を学ぶことで、既定の単位を修得して目標に到達します。

領域	資格到達目標	必修科目の 単位数	選択科目の 単位数
領域1:情報実務の知識・スキル・働く基本能力を修得し活用する基礎的実務実践力の領域	情報実務に関する知識・スキルの基本を修得し、社会人基礎力と自己管理能力を発揮して実践的なビジネス現場で情報実務を実践し、学びを継続することができる。	2単位以上	16単位以上
領域2:情報実務力の専門知識・スキルを修得し、総合的に活用する専門的実務実践力の領域	情報実務の専門知識・スキルを修得し、専門的実務実践力を活用して変化するお情報ビジネス環境に対応して成果を出すことができる。	4単位以上	
領域3:情報実務の課題発見・総合的課題解決と学修継続力の領域	情報知識・スキルを活用して取組む総合的学修活動を通して、多様な職業能力の基盤となる課題発見・解決力と学びの継続力の重要性を理解している。	2単位以上	

目標に到達するための教育課程編成の例

上級情報処理士資格に関して本協会が設定した到達目標に至るために各大学は、独自の工夫を凝らした学修項目・学修プログラムを設定して、学生の教育を行います。下はその一例です。

上級情報処理士の領域3「総合的課題発見・解決力」で設定された学修項目と学修プログラムの一例

学修項目	学修プログラム
<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決学習の進め方 ●課題の明確化 ●課題に関する資料収集 ●収集データのまとめと考察 ●課題解決活動の方針と計画の立案 ●実施の段取りと準備 ●課題解決活動の実施と結果の共有化 ●実施結果の振り返りと発表 	ビジネス実務の学修で身に付けた課題解決の実践と振り返りの学修プログラム